

66 平成22年度卒業生実態調査分析

国立障害者リハビリテーションセンター

自立支援局神戸視力障害センター教務課 土志田 武 小田 剛

当センターで、按摩・鍼灸という職業教育を受けた利用者が、卒後、職業を含めどのような生活状況にあるのかを調査した。職業並びに年金から得られる月収の合計は20万以上になる者が49.2%（仕事からの収入がある者のみ）。決定木を用いた分析からは仕事に対する満足度が高く、専門書を読んでいる者の収入が高くなる傾向がある事。ある程度高い収入を得るためには5年程度の年数も必要である等の傾向が得られた。

調査の概要～ 平成22年度卒業生実態調査は、当センター利用者並びに卒業生の支援の充実を図ることを目的として実施したものである。対象は当センター卒業生1154名（センターとして連絡可能な最大人数）。調査方法はアンケート用紙送付で、調査時期は平成22年10月。調査項目は、生活状況、現在の職業、日常生活全般、センターで実施してほしい事、開業の5項目である。回収結果は有効回答数244であった。

調査結果の概要～ 平均年齢63.9歳、男性79.1%、障害者手帳の等級は1級が63.9%、年金による収入（月々）については5～10万円未満が52%、10～20万円未満が31.6%、仕事から得られる収入（月々）は（ボーナスは含めない）は10万円未満が40.2%、10～20万円未満が37.0%、20万円以上が22.7%であった。仕事に就いてからの年数と収入との関係では5年未満では30万円以上になる者がおらず、年数を追うごとに収入が増す傾向が見られた。職種についての満足度は、大変満足しているが28.9%、まあまあ満足しているが47.2%であった。仕事に関係する知識をどのような形で得ているかについては、インターネットからが13.9%で、残りの項目は30%程度であった。

日常生活全般については、平成22年度国民生活に関する世論調査との比較を行った。充実感を感じる時や自由時間の過ごし方で、世論調査より高い値となっているものは、自己研鑽的、社会貢献的要素であり、低い値となっているものは、人との交流、リラックスといったものに関係する項目である。現在の生活に対する満足度は、大変満足しているとまあまあ満足しているの合計は68%、世論調査の結果より高い結果であった。

仕事から得られる収入をターゲットとした決定木による分析では、仕事に対する満足度や仕事に関係する知識をどのような形で得ているかが重要な因子となっている。仕事に大変満足しているものでも専門書から知識を得ていないものは10万以下の収入となるが、専門書から知識を得ている場合には20万～30万の収入となる。又仕事に、まあまあ満足している者では、ITを活用している場合には10万～20万の収入となるが、利用していない場合には10万以下の収入となってしまっている。

まとめ～ 科学進歩の著しい現在、仕事上の新しい知識を身につける手段を持たない事は罪ともなりかねない。知識獲得にも繋がり、収入の増加にも繋がるであろう専門書や雑誌・インターネットの利用の促進を利用者に図ることは私たち職員の重要な課題の一つであろう。